

議 長
確認印

経済常任委員会会議録

1 日 時	開会 令和8年7月10日 10:00 閉会 令和8年7月10日 11:00
2 場 所	委員会室
3 出席委員	菊地哲也、堀江祐司、小林達信、青砥與藏、吉村守広、鈴木孝則
4 欠席委員	
5 出席要求者 (説明員)	まち振興課長、課長補佐兼商工観光係長、埴町観光協会（事務局長）
6 職務出席者	議会事務局長、書記
7 付議事件	第1 埴町観光協会の運営状況について
8 議事の経過	堀江祐司副委員長開会 第1 埴町観光協会の運営状況について 委員長：説明を求める。 （まち振興課長が説明員を紹介し、資料に基づき説明） 委員長：まち振興課より説明のあった件について、質疑を行う。 青砥委員：観光協会には行政にできないことを期待している。収益事業も可能である。埴町のメインとなる観光資源が思いつかないが、今後重点的にPRしたいエリアや観光資源は何か。 事務局長：これまで町からの事業等で業務が広範囲になり、中心が薄れていた。写真コンテストを充実させ、複数回来町するリピーターもいる。メインはダリア祭りであり、これを中心に取り組む。茨城や栃木からの客が多いが、関東圏からの誘客も重要である。宿泊は「湯遊はなわ」のほか、「湯岐温泉」「乙姫の湯」も増えている。温泉や商店街と連携してPRし、風呂山公園のツツジ再生もカギになると考えている。 青砥委員：関東圏へのPRに期待するが、都心からは遠いため、近い北関東等への誘客が必要である。リピーター獲得や、事業の広域化も考えるべきではないか。 課長：リピーターは重要であり、過去のモニターツアー参加者を対象としたツアーも検討している。広域化については八溝定住自立圏での企画もあるため、観光協会と連携するよう行政からも要望したい。 委員長：モニターツアーでの風評被害対策として提供している埴町産食材はどのようなものか。また、関係人口増から最終的に移住者を増やす狙いがあると思うが、移住の問い合わせはあったか。 事務局長：食事は基本的に町内の農作物を使用している。昼食2回は埴町産食材を提供し、道の駅での地元野菜バイキングや、農家への弁当依頼、矢塚カフェでのうどん作り体験などを行っている。 課長：移住の問い合わせは現在のところない。作成した移住者向けパンフレットを今年のモニターツアーや都市部の移住フェアで活用し、移住増を目指したい。 小林委員：過去にも触れられていた川上川の源流整備は、現在どうなっているか。 課長：業者へ委託せず自前で測量や整備を行っているため時間がかかっている。昨年、森林管理署

との打ち合わせが終わり、無償の貸与契約を結ぶことができた。今年は契約部分を観光協会の作業員で整備する準備をしており、整備後のイベントも検討している。

小林委員：川上川源流は良い場所だが、整備されておらず立ち入れない。観光資源にもなるのでぜひ活かしてほしい。

課長：貸与契約を結んだのは一本道になるため、発展的な事業となるよう努力したい。

吉村委員：川上川源流の場所はどこか。

事務局長：片貝地区の小野田自然塾付近に遊歩道入り口があり、約 2km の距離がある。遊歩道の倒木撤去や除草作業を行い、8～9 月頃までに人が入れるよう整備する予定である。以前は自然塾のキャンプで源流探索があったが、現在は休止中で整備されていない状態である。

吉村委員：小野田自然塾はもう活動しないのか。町との交流はどうなっているか。

課長：毎年活動したいとの連絡はあるが、困難なようで活動できていない状態が続いている。

鈴木委員：観光資源整備事業補助金 1,250 万円について、施設数の割に金額が大きいと感じる。どのような整備をしているのか。

事務局長：サイクリングロード関係（道の駅周辺の草刈り・雑木伐採）、河童のすり鉢遊歩道入り口の草刈りなどを観光協会が対応している。羽黒山は中腹まで重機が入れるよう整備し、ボランティアを募って遊歩道の整備を行った。今年も寄付を受けた里山整備の資金を活用し、数年かけて整備する予定である。作業員 4 名に加え、状況により観光協会の職員も一緒に作業している。

課長：川上川源流の経緯について補足する。森林管理署が間伐を行う際、町に看板撤去の依頼があり、町から観光協会へ依頼して撤去した経緯がある。これまでは立ち入りに都度入山許可が必要であったが、貸与契約を結べたことで整備の話が一気に進められることとなった。

委員長：他ないので説明・質疑を終了する。

（説明員退席）

委員長：まとめだが報告書期限について。

事務局長：7 月 24 日（金）でお願いしたい。

委員長：期日厳守でお願いしたい。

堀江祐司副委員長による閉会

埴町議会委員会条例第 27 条の規定により署名する。

令和 年 月 日

経済常任委員長